

---

# 死んで何が悪い

夕焼け

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死んで何が悪い

### 【Nコード】

N3419N

### 【作者名】

夕焼け

### 【あらすじ】

それはとてもシンプルな足し算の問題だ。

生きてるだけで十分幸福だとか、どれだけ望んでも明日を生きれない人たちがいるのだとか、死ぬ気になれば何だってやれるだとか、残された人たちの気持ちを考えるだとか、そんな事重々承知で、誰に言われなくなつて分かりきつて、それでも自殺する人つてのは自殺をする。

それはごくシンプルな足し算引き算の問題だと思う。

何かの拍子に容器の中身が完全に0になって、それでも明日を生きるのには相応の代価が必要になる。

中身はゼロだから代価を支払えない。

相応に時間と愛情を注ぎ込めば、相応には回復するかもしれない。でも実際問題時間も愛情も十分に与えられはしなくて、それでも然るべき時間の経過の後に、然るべき明日がやってきて、当然心は枯渴したままで、完全なる枯渴状態のまま明日を迎えて、生きてるだけで十分幸福だとか、どれだけ望んでも明日を生きれない人たちがいるのだとか、死ぬ気になれば何だってやれるだとか、残された人たちの気持ちを考えるだとか、そんな事を悠長に考えてる余裕などあるはずは無くて、だから人は死ぬ。

収支は決して0以下になつてはいけない。

0を下回る時、そこには死が待ってる。

ただそれだけの事だ。

1億の借金があるのが、最愛の恋人に最も酷い裏切りを受けようが、20年勤めた会社が倒産しようが、事故で家族が全員死のうが、心が完全に枯渴さえしなければ、まだやり繰りの仕様がある。人は明

日を生きれる。

でも心が枯渇しちゃえば、いくらお金があろうが、守るべき家族がいようが、何もかもがうまくいってようが、やっぱり人は死んでしまふ。

時間をかけてゆっくり磨り減ったのか、何かの拍子に中身がこぼれて空っぽになっちゃったのか、とにかく容器の中身が完全に0になつて、誰かがそこに何かを注ぎ込む間もなく、彼らは死ぬ。

あるいは0のまましばらく持ちこたえてても、誰からもそこに何も注いでもらえず、息絶えるように死ぬ。

自殺して何が悪い。

正しいとか間違つてるとか、そんなのは薄っぺらい詭弁だ。

教育過程で刷り込まれて植えつけられた観念でしかない。ほんとは正しいも間違つてるも無い。

生きる事にも、死ぬ事にも。

だから、どれだけ自己啓発が流行ろうが、宗教が流行ろうが、すばらしき音楽があろうが、自殺をする人はする。

植えつけられたまがいものの生死観で「他人の生き様」をとやかく言うような野暮をしたくない。

自殺だろうがなんだろうが、死ぬまでを生きた。生きようとした。

その事に対してまず敬意を払うべきだ。

それをしない人間が、人の生き方、死に方をどうこう言う事が横暴だ。

死にたいと思つたことがある。

別に死を仄めかして同情やら理解を求めたかったわけでもない。ただ、死ねば楽になれるよなあっていう、それだけだ。

朝新聞を配ってて、高層マンションの10階までエレベーターで昇って、その階段の踊り場で、ふと思う。

ああ、ここから一步「向こう側」に足を踏み出すだけで、全部終わって、楽になれちゃうんだよなあって。

生まれつきの病気も、これからゆっくり時間をかけて損なわれていく恐怖も、自分を頼る人たちが自分に向けてくれる信頼や好意の、その逃れがたい重圧も、誠実になれない自分の意地汚さも、人の心に垣間見える醜さに対する嫌悪感、そんなものを抱きつつへらへら笑って生きる日々も、なんとなくどっちつかずな性自認も、何一つ満足にやれない無能さも、それらに対する苦惱も、お金の事も、お金を稼ぐ上で毎度障害になる病気の事も、生きるうえで生じる苦しみのも何もかもを放棄することが出来る。

この高さ1メートルの塀をよじのぼって、向こう側に行けば。もう何も考えないでよくなる。

別に誰に理解してもらわなくてもいいから、とにかくもう楽になりたい。

そんな風な事を考えちゃう時が時々ある。

頭が思いつきり陥没して、手足もひしゃげて、呼吸もせず愚痴をこぼす事もなくなった、ピクリとも動かない、ただの肉の塊と化した自分を見た両親がどんな気持ちになるか、俺を信頼してくれてた友達がどんな気持ちになるか、それを想像する余裕もなくなる時がある。

ここから落ちたら痛いだろうな、とか、死んだらどうなるのか、とか、そんな実的な事をあれこれ考える余裕もなくなる時がある。ただもう何でもいいから楽になっちゃいたい、と思うときがある。

それでもまだ死ぬ事をしないで生きてるのは、別に美談めいた理由があるわけでもなくて、なんだかんだいって俺もまだ0にはなっていないってだけの事だ。

ぎりぎり1か2程度HPが残ってて、そこから多少持ち直す程度の時間的余裕、精神的余裕がたまたま与えられてたっただけだ。自殺した人たちより多少ツイてたから生きてるっただけ。

俺なんかはまだ運がいいほうだ。

どれだけ追い詰められても、なんだかんだ言っつて、誰かが助けてくれる。

下世話な話、多少人からチャホヤされる程度のルックスがあつて、「困ってるんです。助けてください」っていえば、誰かしらが手を貸してくれる。

体でも売ればお金だつてどうにかなつちゃう。

お金に困って、そうやって生きしのいだ事もある。

でも、それが出来ちゃう程度の肉体を持って生まれた事が幸運だっただけで、そういう点で恵まれなかつた人たちが追い詰められて自殺しても、俺は何もいえない。

俺は「運が良かった側」だからだ。

生きたい人は生きればいいし、死にたい人は死ねばいいし、死をほのめかして誰かに救いを乞いたい人はそうすればいい。

正しいとか間違つてるとか言いたがる人はたくさんいるけど、実際は正しいも間違いも無いんだから。

何もかも耐えられなくなつたら死ねばいい。

高層マンションから飛べば一発で死ねるんだし。

死んで何が悪い。

ちよつと短絡的にそう考えてみる事で、多少楽に生きられるようになった。

そうやって騙し騙し明日も多分生きる。  
運がよければね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3419n/>

---

死んで何が悪い

2010年10月8日22時30分発行